

ベトナム社会主義共和国ハイフォン市-北九州市に関する都市間連携

ハイフォン市と北九州市は、2009年に「友好協力協定」を締結後、主に上下水道分野の技術交流や文化・経済交流を行ってきた。さらに、2014年には「姉妹都市協定」を締結し、廃棄物部分野、低炭素技術分野等も含め包括的な連携に発展してきた。特に、2014年には「ハイフォン市グリーン成長推進計画」を共同で作成し、そこで特定された15のパイロットプロジェクトの具体化に取り組んできている。

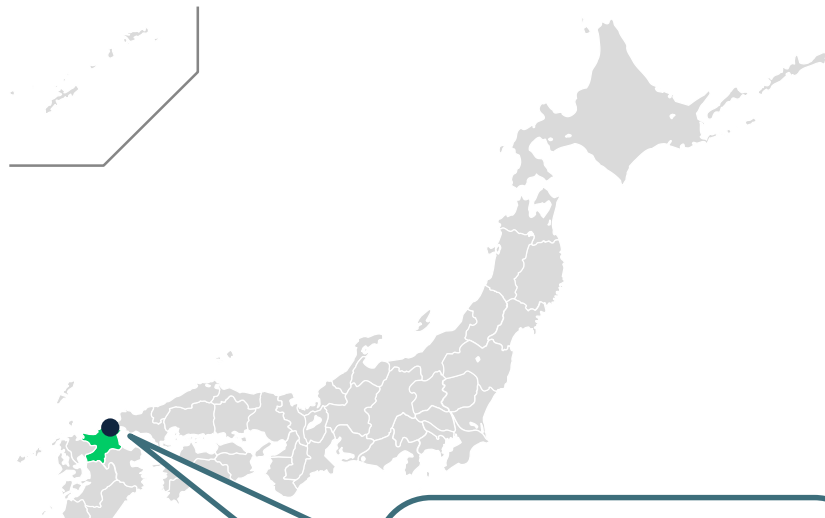
ハイフォン市

中央直轄都市の一つで、北部最大の港湾都市。産業が集積していることから、産業セクターのGHG排出削減が課題となっている。



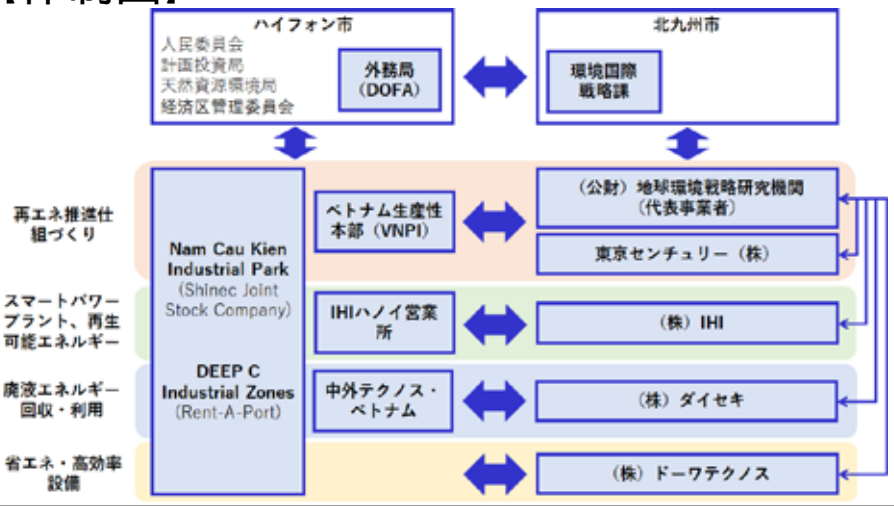
北九州市

日本最大のエコタウンを有する産業都市。SDGs未来都市に指定されるなど、SDGsに積極的。2020年にはゼロカーボンシティを表明。



ベトナム社会主義共和国ハイフォン市-北九州市に関する都市間連携

【体制図】



【事業活動・成果】

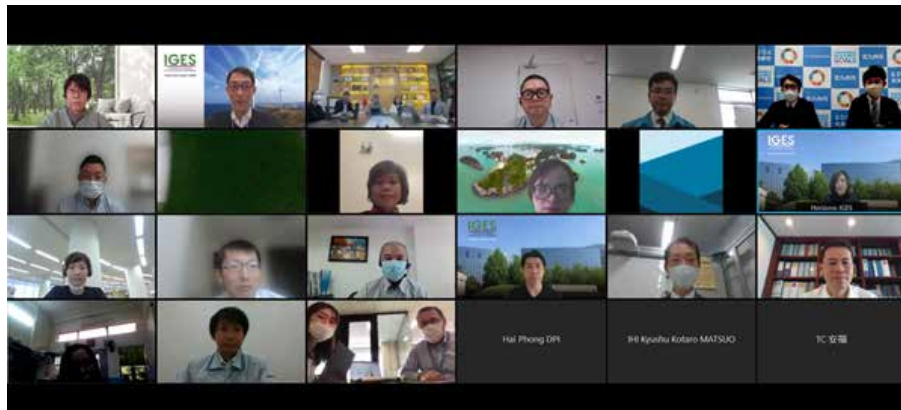
活動

- キックオフ会合（2回）の開催
- ファイナル会合（2回）の開催
- 現地企業との個別コンサルテーション会合（複数回）の開催
- 調査団による個別調査・分析

成果

- 電力小売り料金の安さと日照条件の悪さから、太陽光発電・蓄電池の組合せでは投資回収期間が長くなる。
- セメント原燃料化への関心・需要が高いが、国の制度・基準が曖昧であるため、導入ができていない状況である。国の基準づくりが必要。
- 水処理及び廃棄物処理に関する新たなニーズがハイフォン市及び工業団地から挙がってきたため、これらの分野について更なる検討が必要。

【写真】



Nam Cau Kien工業団地とのキックオフ会合の様子